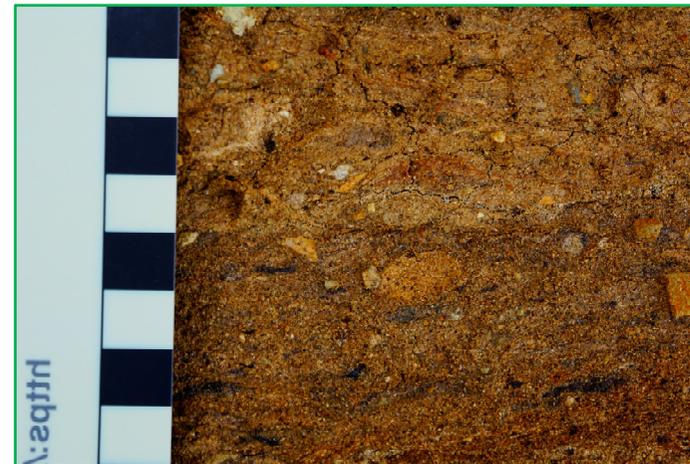


2.2.1 地層区分の整理

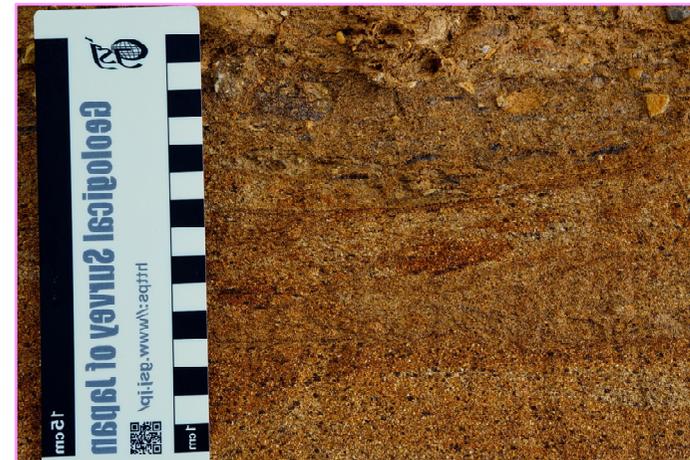
①層相確認-はぎとり転写試料③ (3/3) -



はぎとり転写試料写真 (左右反転) (解釈線なし)



拡大写真① (左右反転) (解釈線なし)



拡大写真② (左右反転) (解釈線なし)

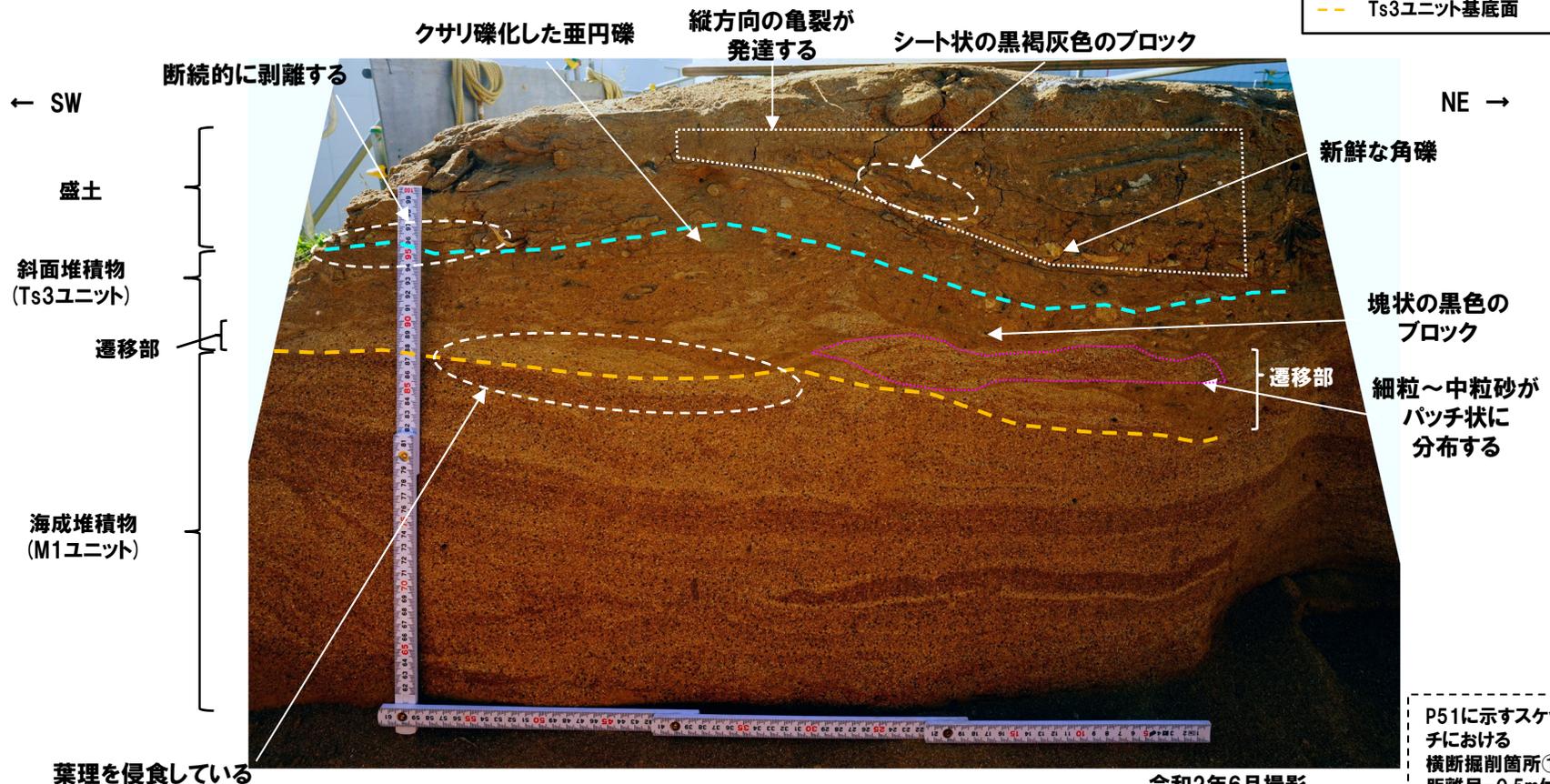
2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-露頭観察(層相確認③)(1/2)-

- 海成堆積物(M1ユニット)は明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。葉理が認められる。
- 遷移部(Ts3ユニット)は褐灰色を呈するシルト混じり砂で、細粒～中粒砂がパッチ状に分布する。下位の海成堆積物に認められる葉理を侵食している。
- 斜面堆積物(Ts3ユニット)は暗褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、クサリ礫化した亜円礫及び塊状の黒色のブロックが認められる。
- 盛土は暗褐灰～黒褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂～シルト質砂で、層相変化が著しく、不均質な層相を示す。新鮮な角礫が混じる。また、シート状の黒褐灰色のブロックが認められ、縦方向の亀裂が発達し、層相の差異により境界は明瞭であり、断続的に剥離する。



- (凡例)
- 盛土基底面
 - Ts3ユニット基底面



P51に示すスケッチにおける横断掘削箇所①距離呈-0.5m付近

拡大写真(層相確認③位置(解釈線あり))

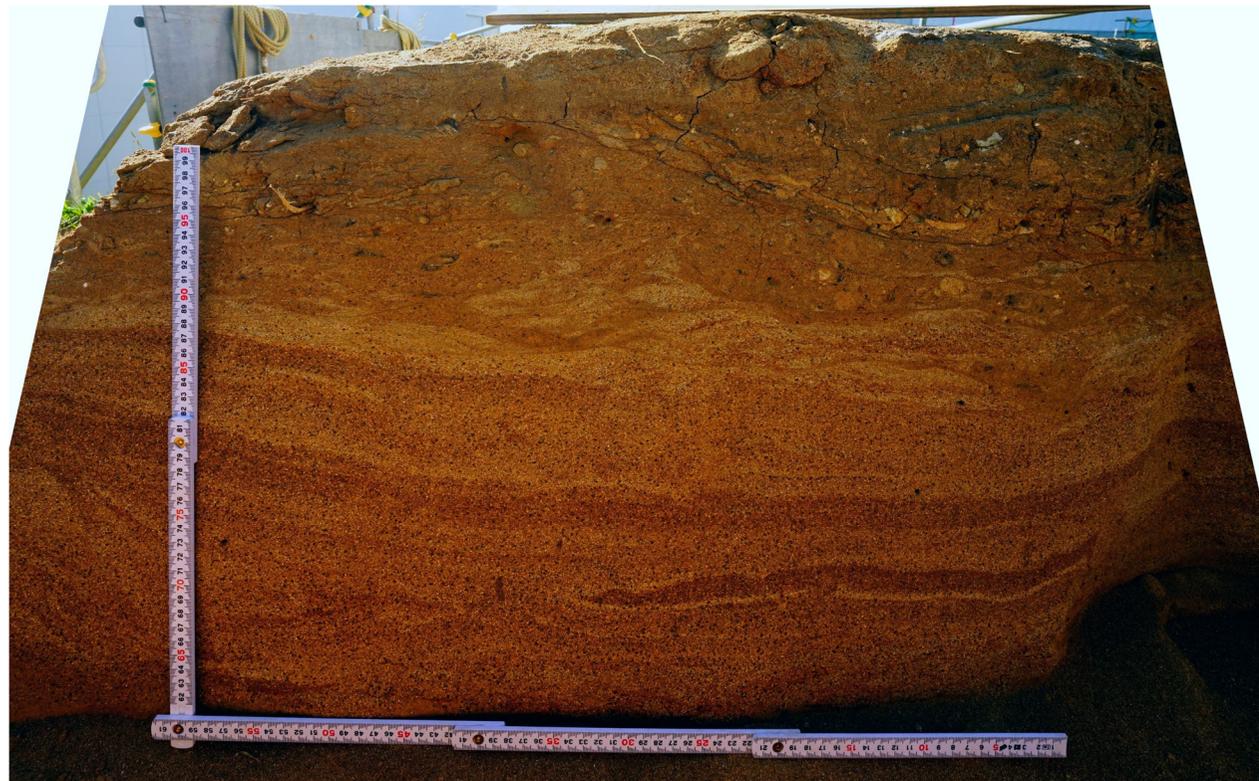
令和2年6月撮影

2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-露頭観察(層相確認③)(2/2)-



← SW



NE →

拡大写真(層相確認③位置(解釈線なし))

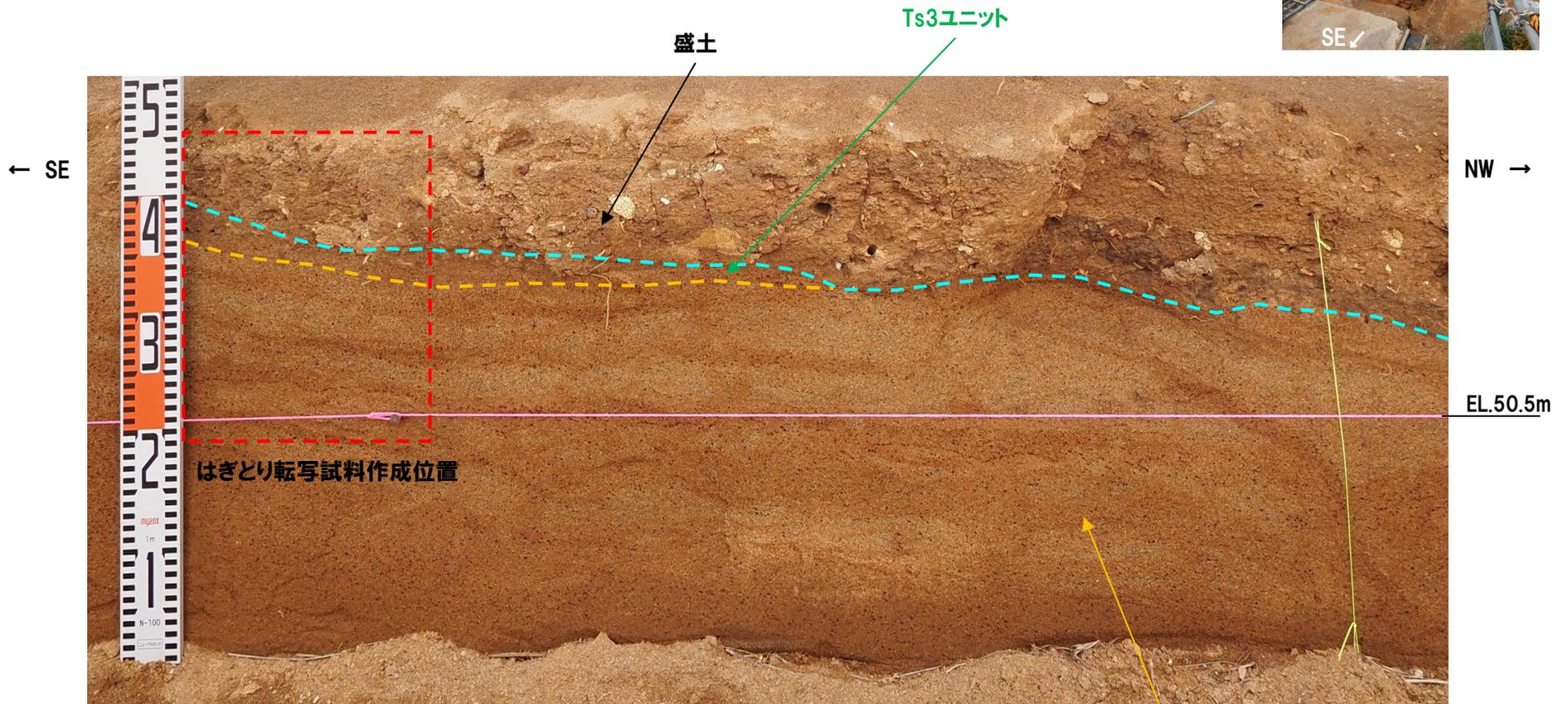
令和2年6月撮影

2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料④(1/3)-

(凡例)

- 盛土基底面
- Ts3ユニット基底面



令和2年3月撮影

M1ユニット

P51に示すスケッチにおける距離呈0.5m付近

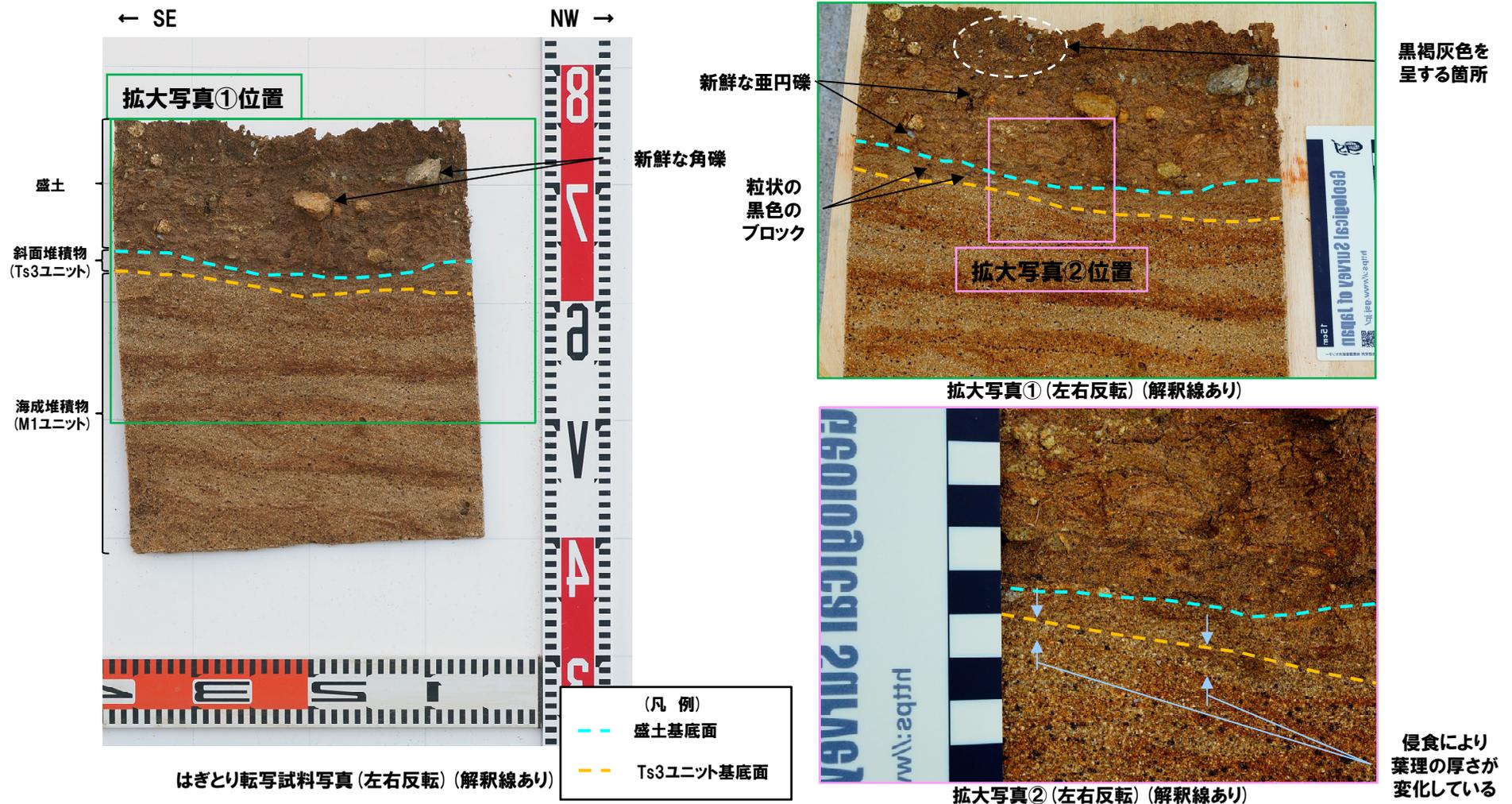
拡大写真(はぎとり転写試料④作成位置)

余白

2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料④(2/3)-

- 海成堆積物(M1ユニット)は明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。葉理が認められる。
- 遷移部(Ts3ユニット)は認められない。
- 斜面堆積物(Ts3ユニット)は褐灰色を呈するシルト混じり砂で、粒状の黒色のブロックが認められる。また、下位の海成堆積物に認められる葉理を侵食している。
- 盛土は暗褐灰～黒褐灰色を呈する礫混じりシルト質砂であり、不均質な層相を示す。新鮮な角～亜円礫が混じり、黒褐灰色を呈する箇所が認められる。



2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料④(3/3) -



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)



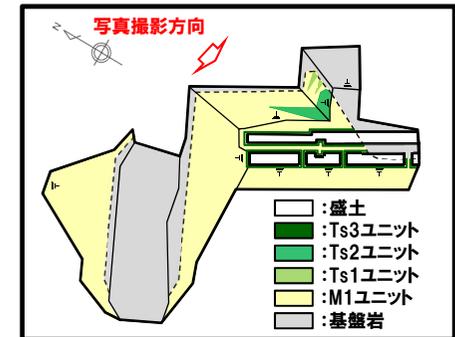
拡大写真②(左右反転)(解釈線なし)

2.2.1 地層区分の整理

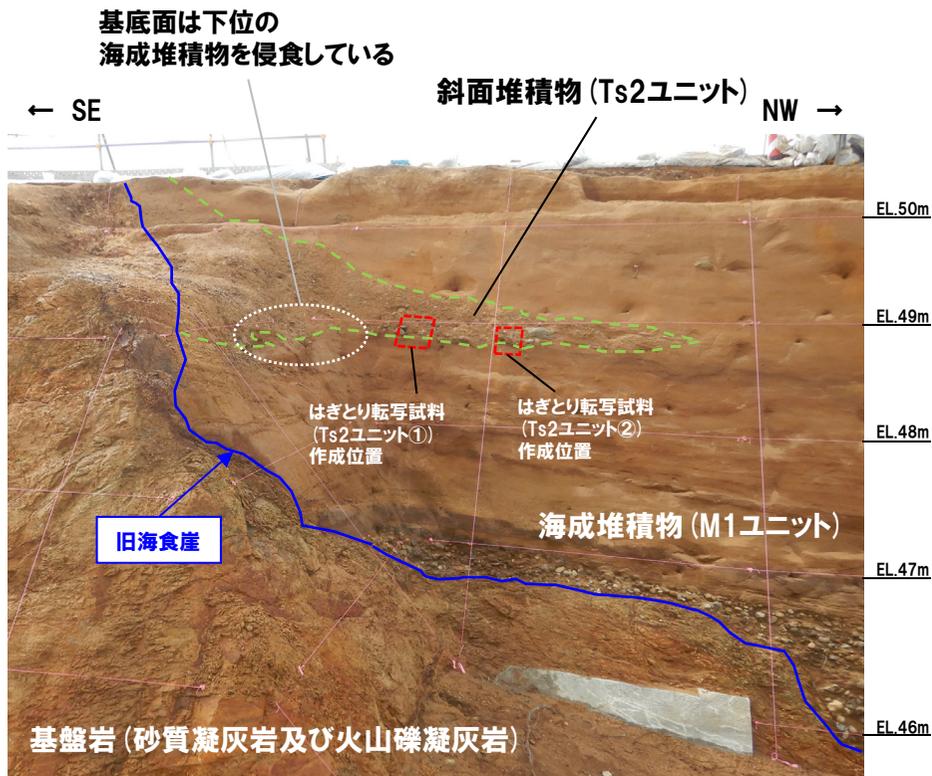
①層相確認-露頭状況(Ts2ユニット)-

○南側壁面の背後法面においては、Ts2ユニットが分布しており、以下の特徴が認められる。

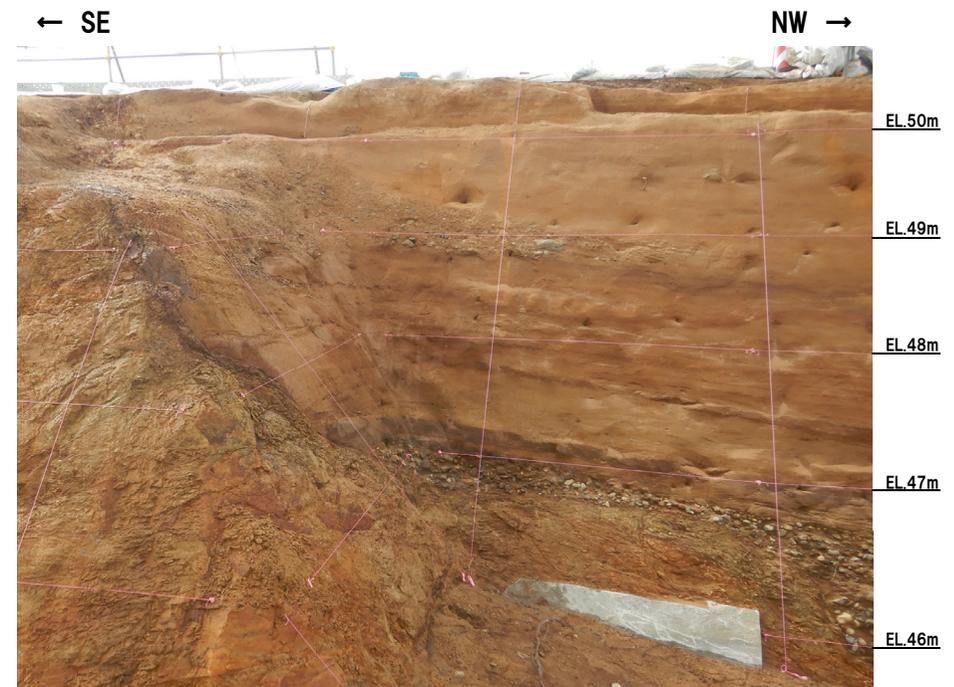
- ・淡褐灰色を呈する礫質シルト混じり砂である
- ・旧海食崖を形成する基盤岩由来と考えられる礫が認められる
- ・基底面は下位の海成堆積物を侵食している



開削調査箇所(南側)平面模式図



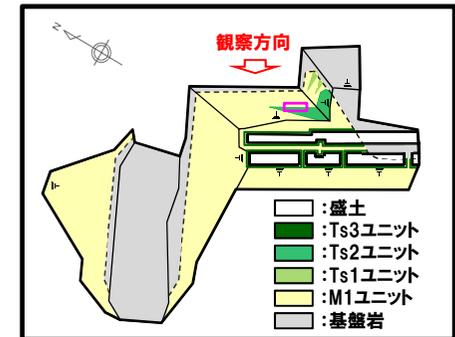
壁面写真(解釈線あり)



壁面写真(解釈線なし)

2.2.1 地層区分の整理

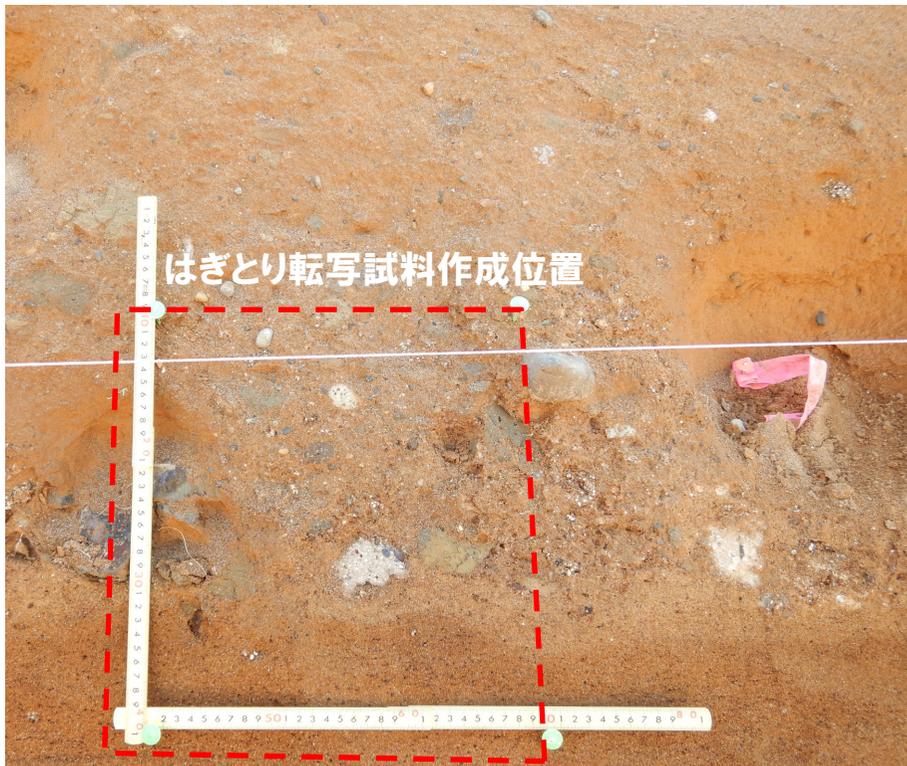
①層相確認-はぎとり転写試料(Ts2ユニット①)(1/3)-



開削調査箇所(南側)平面模式図

← SE

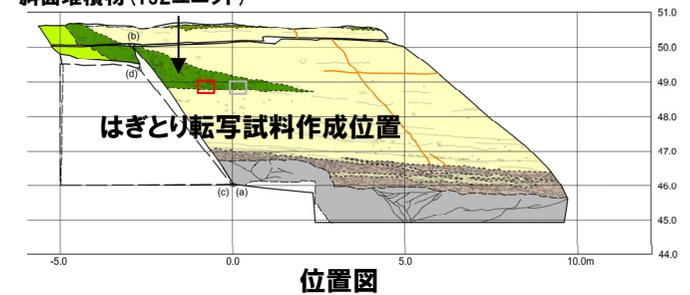
NW →



壁面写真

斜面堆積物 (Ts2ユニット)

EL.49.0m

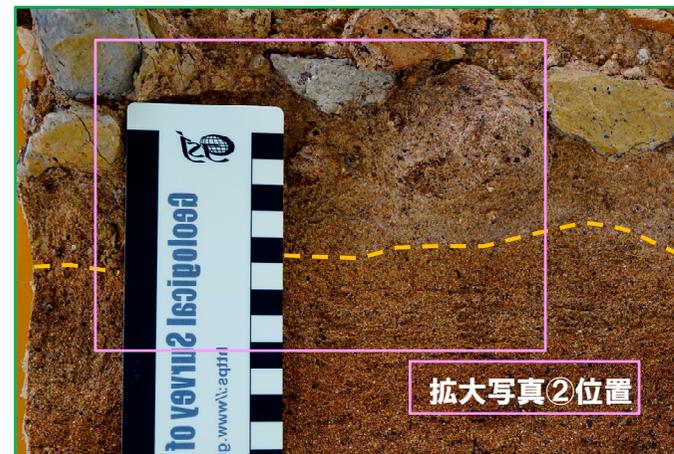
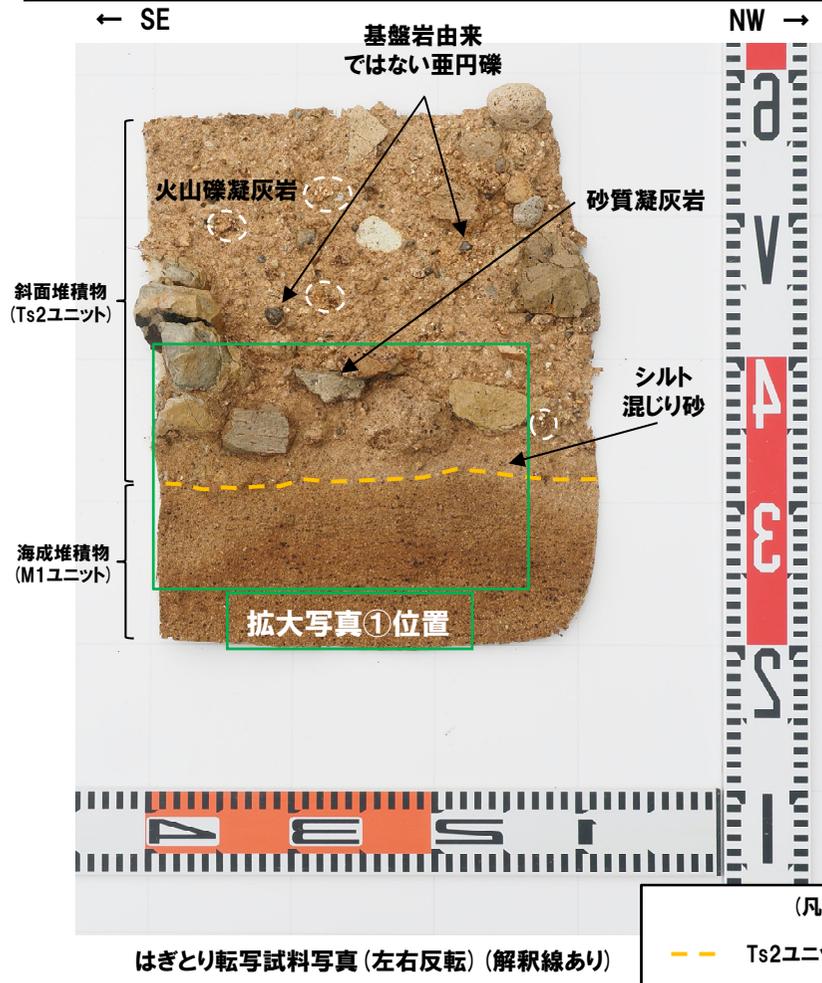


位置図

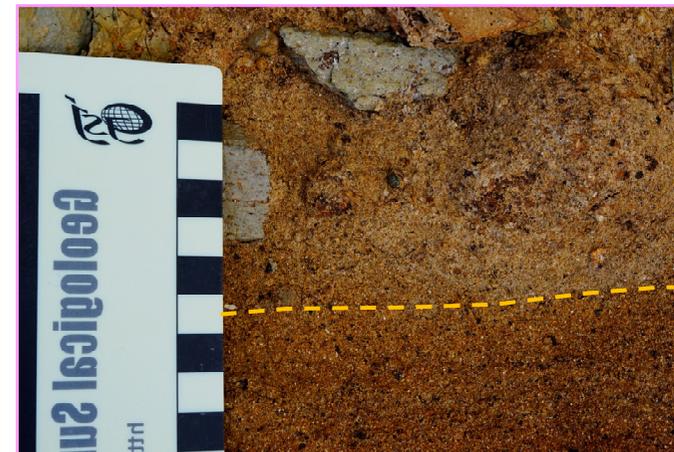
2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料(Ts2ユニット①)(2/3)-

- 海成堆積物(M1ユニット)は明褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰がやや良い。
- 斜面堆積物(Ts2ユニット)は淡褐灰色を呈する礫質シルト混じり砂で、基底面は下位の海成堆積物を侵食している。
- 斜面堆積物(Ts2ユニット)の基質は淘汰が悪いシルト混じり細粒砂であり、旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来と考えられる亜角礫(約30mm以下)及び砂質凝灰岩由来と考えられる亜角礫(約30～50mm主体)が認められる。また、珪質岩等の基盤岩由来ではない亜円礫をわずかに含む。
- なお、斜面堆積物(Ts2ユニット)基底部の層相はシルト混じり砂であるが、パッチ状の細粒～中粒砂又はシルトの偽礫が認められないことから、Ts3ユニットと同様な特徴を有する遷移部は確認されない。



拡大写真①(左右反転)(解釈線あり)



拡大写真②(左右反転)(解釈線あり)

2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料(Ts2ユニット①)(3/3)-



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線なし)



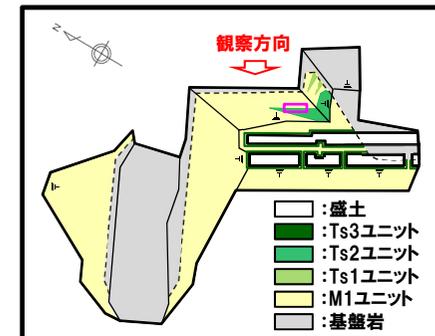
拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真②(左右反転)(解釈線なし)

2.2.1 地層区分の整理

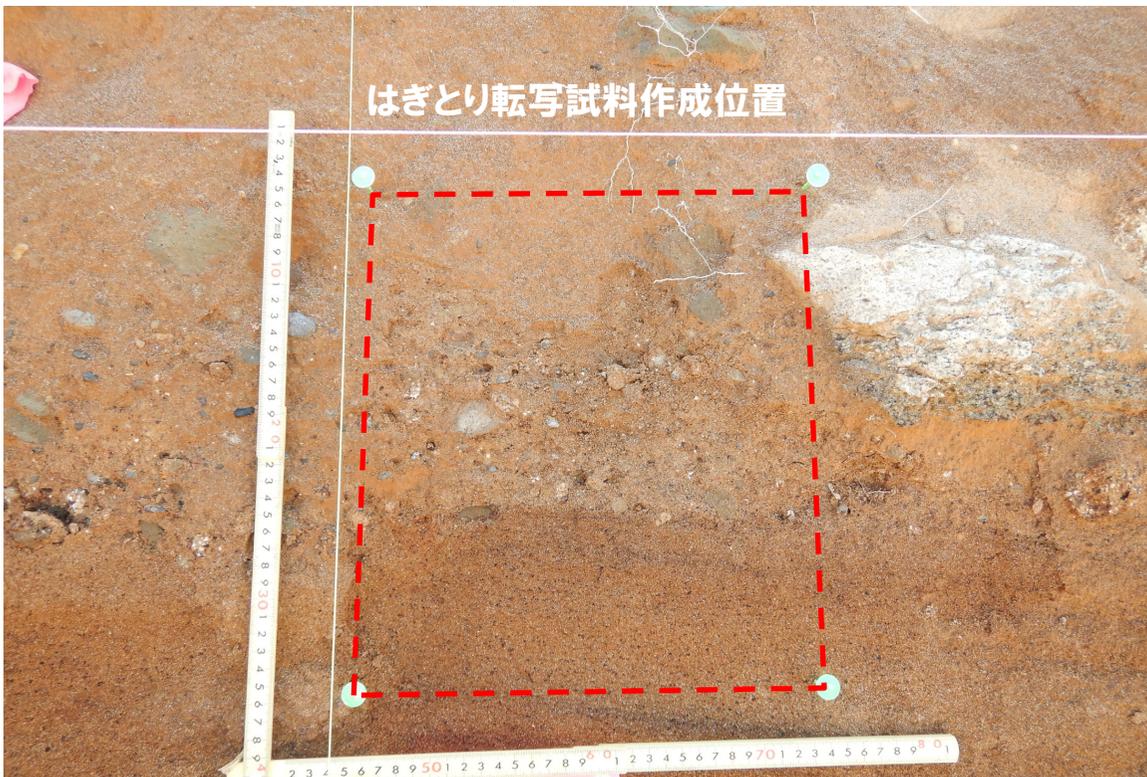
①層相確認-はぎとり転写試料(Ts2ユニット②)(1/3)-



開削調査箇所(南側)平面模式図

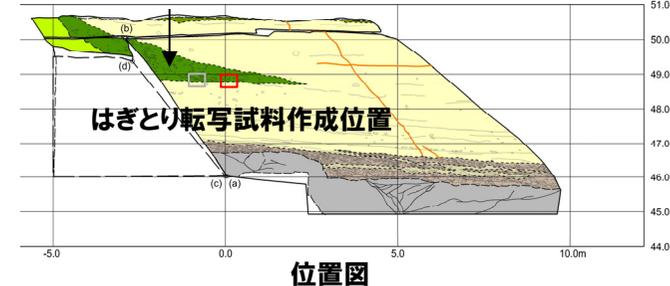
← SE

NW →



EL.49.0m

斜面堆積物(Ts2ユニット)



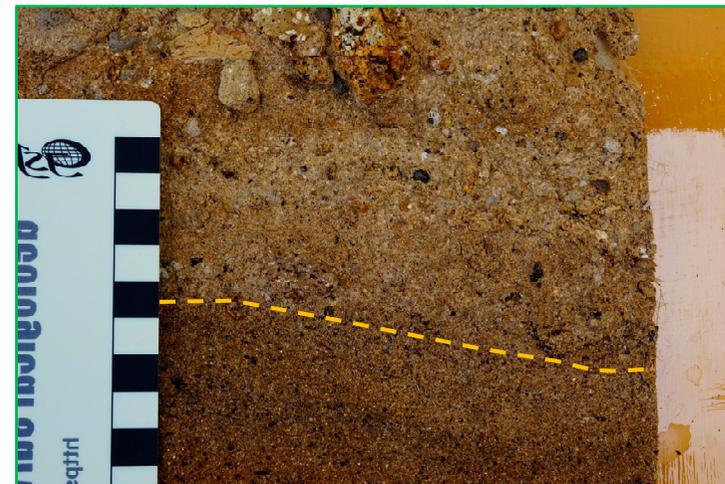
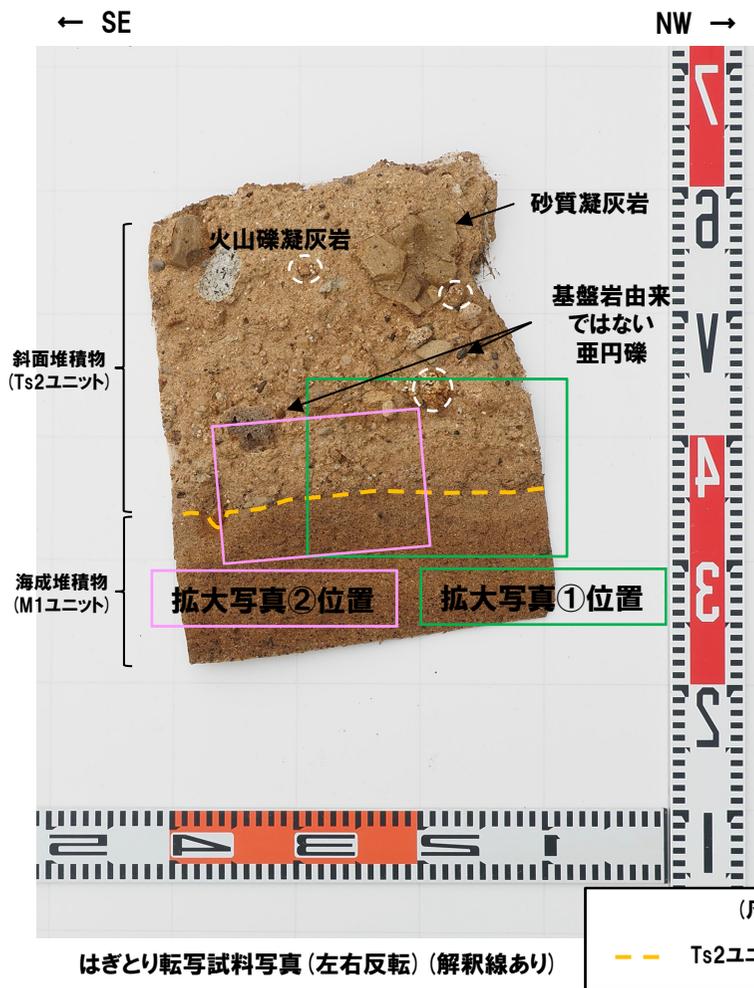
壁面写真

余白

2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料(Ts2ユニット②)(2/3)-

- 海成堆積物(M1ユニット)は褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰がやや良い。
- 斜面堆積物(Ts2ユニット)は淡褐灰色を呈する礫質シルト混じり砂で、基底面は下位の海成堆積物を侵食している。
- 斜面堆積物(Ts2ユニット)の基質は淘汰が悪いシルト混じり細粒～中粒砂であり、旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来と考えられる亜角礫(約10mm以下主体)及び砂質凝灰岩由来と考えられる亜角礫(約50mm以下主体)が認められる。また、珪質岩等の基盤岩由来ではない亜円礫を含む。
- なお、Ts3ユニットと同様な特徴を有する遷移部は確認されない。



拡大写真①(左右反転)(解釈線あり)



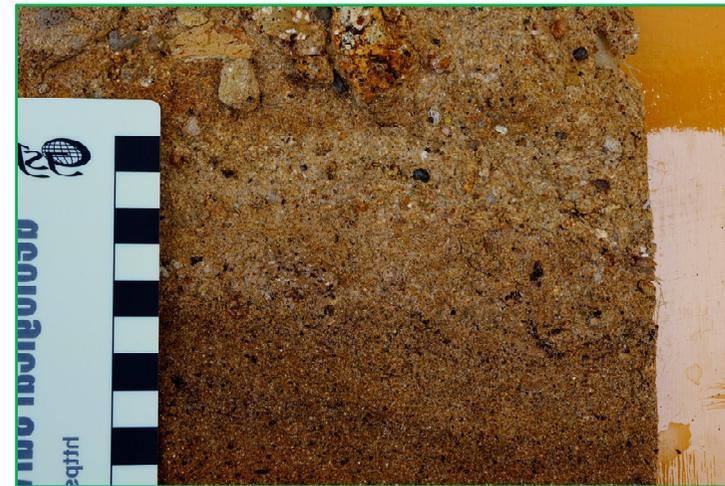
拡大写真②(左右反転)(解釈線あり)

2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料(Ts2ユニット②) (3/3) -



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)



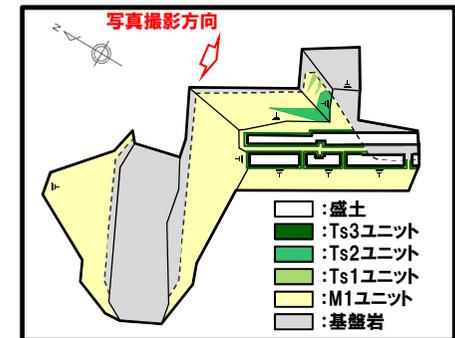
拡大写真②(左右反転)(解釈線なし)

2.2.1 地層区分の整理

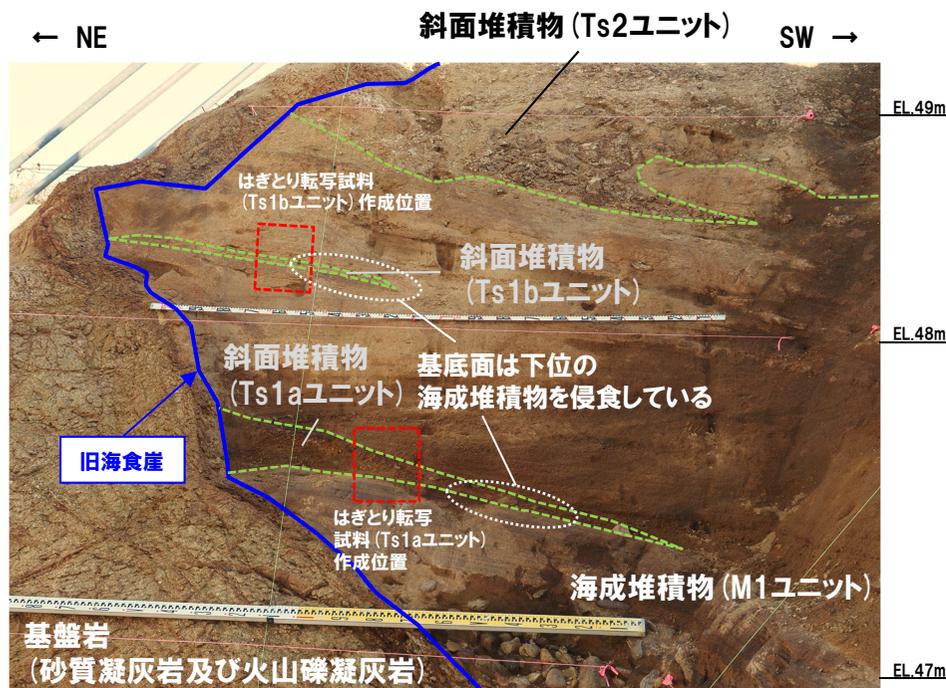
①層相確認-露頭状況 (Ts1aユニット及びTs1bユニット)

○南側壁面の背後法面においては、Ts1aユニット及びTs1bユニットが分布しており、以下の特徴が認められる。

- ・淡褐灰色を呈する礫質砂である
- ・旧海食崖を形成する基盤岩由来と考えられる礫が認められる
- ・基底面は下位の海成堆積物を侵食している



開削調査箇所(南側)平面模式図



壁面写真(解釈線あり)



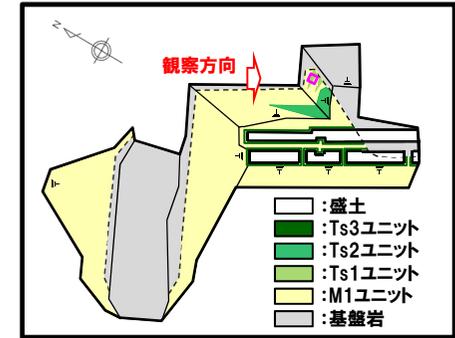
壁面写真(解釈線なし)

2.2.1 地層区分の整理

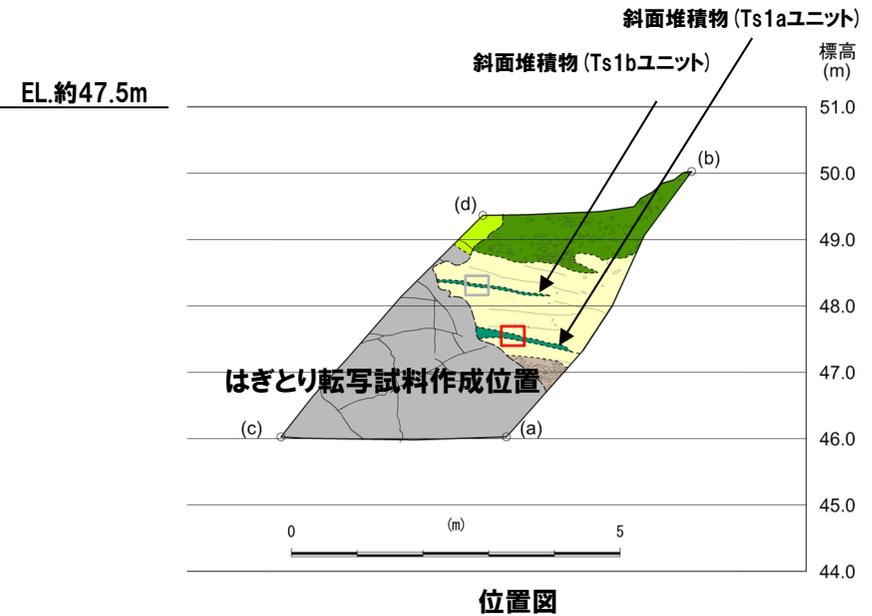
①層相確認-はぎとり転写試料 (Ts1aユニット) (1/3) -



壁面写真



開削調査箇所(南側)平面模式図



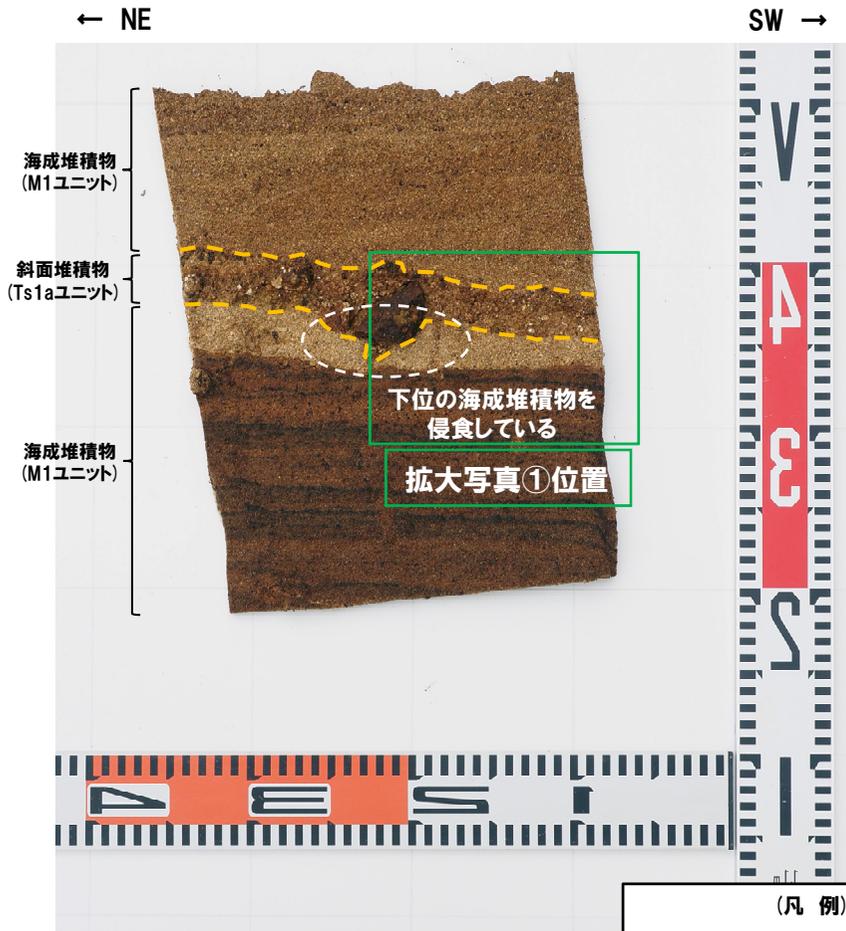
EL.約47.5m

位置図

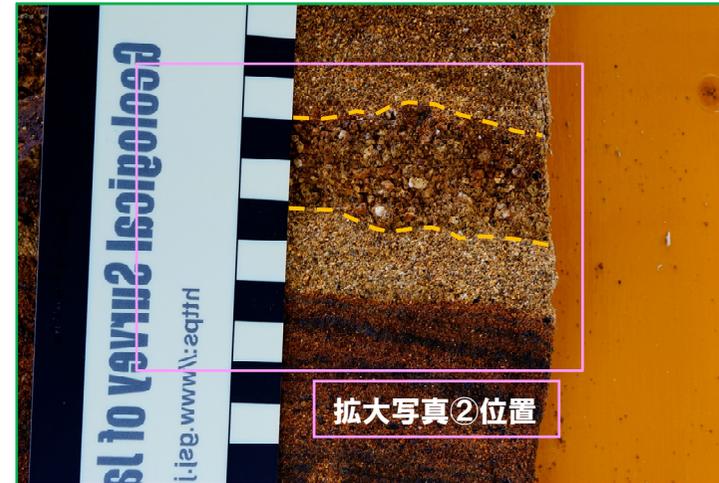
2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料 (Ts1aユニット) (2/3) -

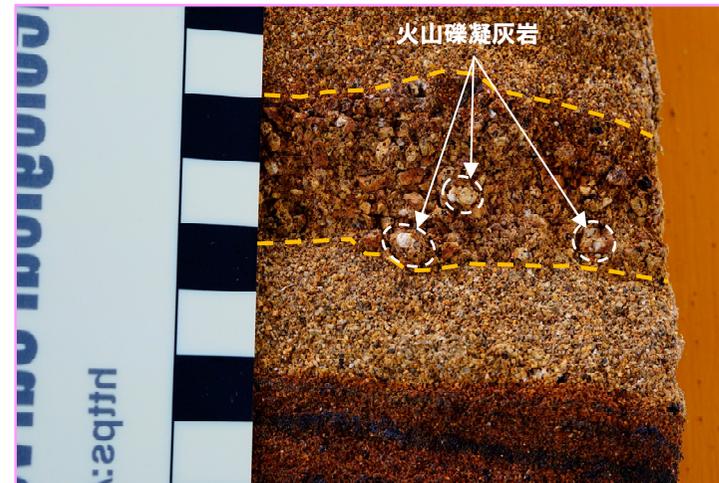
- 海成堆積物 (M1ユニット) は明褐灰～暗褐灰色を呈する砂で、中粒砂からなり、淘汰が良い。平行葉理が発達する。
- 斜面堆積物 (Ts1aユニット) は淡褐灰色を呈する礫質砂で、下位の海成堆積物を侵食している。旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来と考えられる角礫 (約10mm以下主体) が認められる。
- なお、Ts3ユニットと同様な特徴を有する遷移部は確認されない。



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線あり)



拡大写真①(左右反転)(解釈線あり)



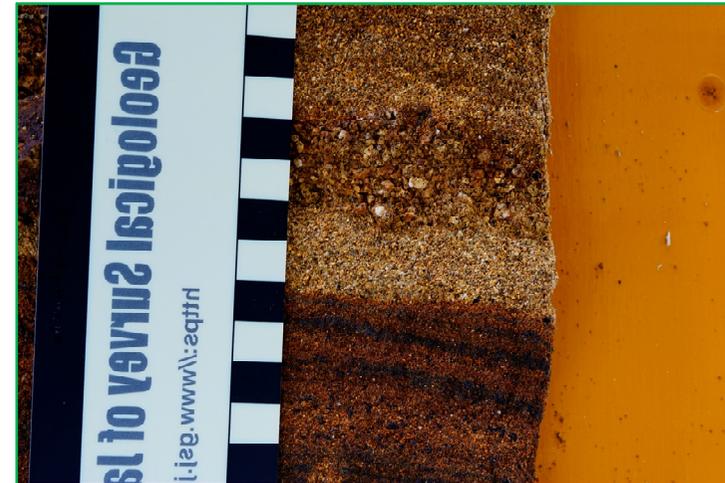
拡大写真②(左右反転)(解釈線あり)

2.2.1 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料 (Ts1aユニット) (3/3) -



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線なし)



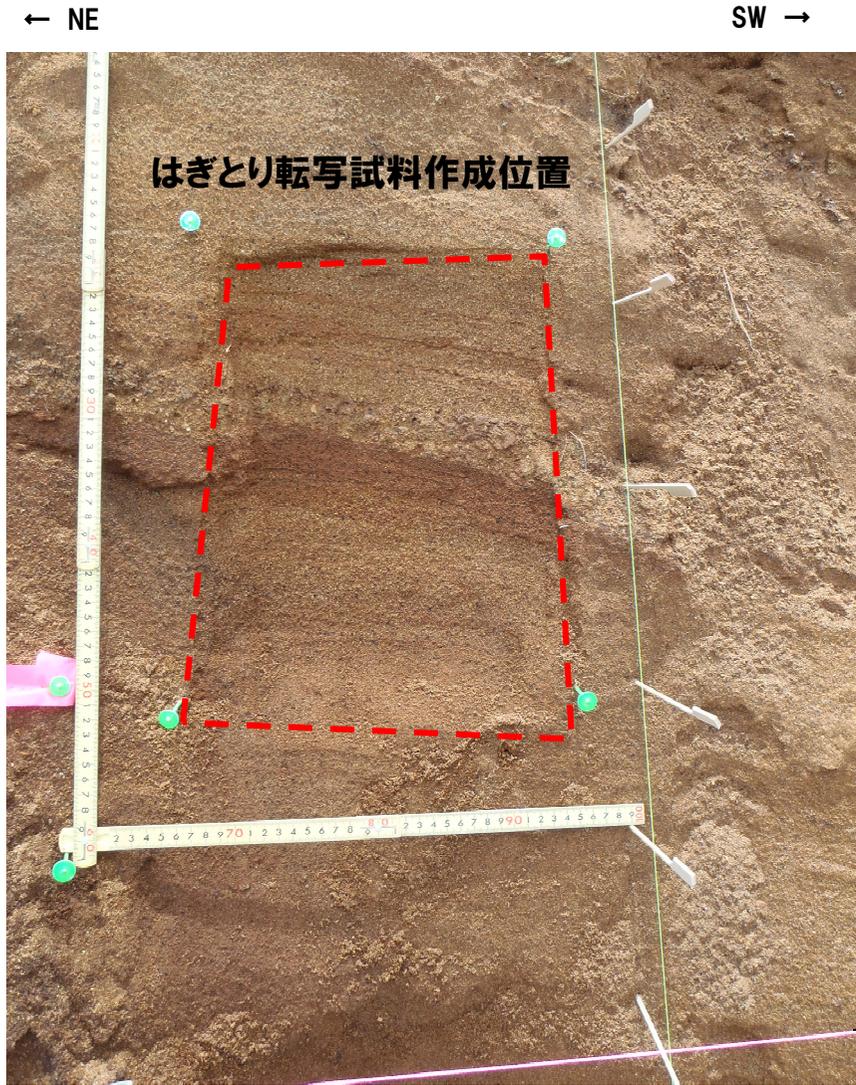
拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)



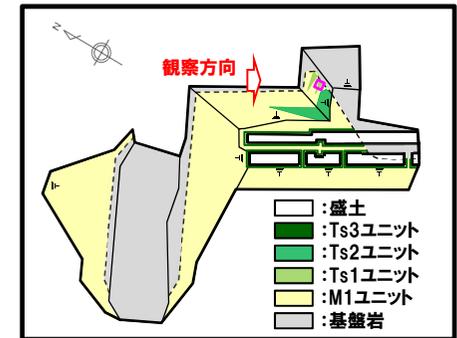
拡大写真②(左右反転)(解釈線なし)

2.2.1 地層区分の整理

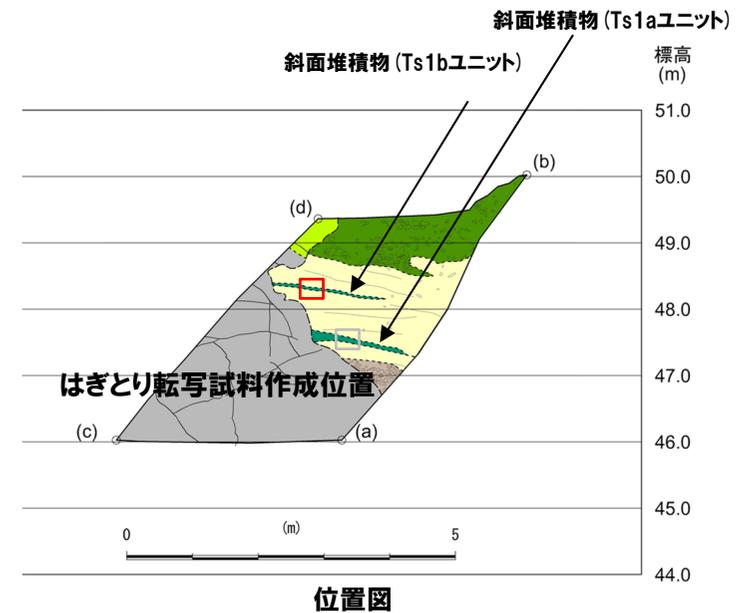
①層相確認-はぎとり転写試料(Ts1bユニット)(1/3)-



壁面写真



開削調査箇所(南側)平面模式図



EL.48.0m